

私たちの責務は 語り継いでいくこと

—東日本大震災体験職員等アンケートを実施—



銚子市役所職員労働組合
大網 裕弥

東日本大震災からすでに2年半が過ぎようとしています。震災前は「そんな大きな地震は起こるはずがない」と都合よく考え、ましてや津波の発生など想像もしていませんでした。それが震災に遭遇した直後は、誰しものが「備えが大切」と考えたものの、時の経過とともに「当分あのような災害は起こらないだろう」に変化し、現在あれほどの大災害のことが人々の脳裏から薄れつつあります。

私たち銚子市職労は、あの日にあったこと、そしてそれ以降にあった出来事を決して忘れてはいけない、風化させてはいけないものと位置付け、自治研活動の一環として、あの時、市職員として様々な場所で見、聞いた貴重な体験を記録に残す作業に取り組むこととしました。

この取り組みを始めようとしたきっかけは、職員同士の「あの時はあんなにたいへんだったのに、みんなそのことを忘れはじめているんじゃないか」という何気ない会話からスタートしました。しかし、構想自体は早くから出来ていたものの、なかなか実行に移すことができず、実際に始まったのは構想開始から約9か月が過ぎた今春でした。実施にあたり、まず調査の基本は行政の内側からの視点としました。これは、今までも住民側からの調査などは数多く行われましたが、市職員として避難所、災害対策本部等防災の最前線で業務に携わった者の貴重な実体験についても将来に残すべきと考えたからです。

行政の側からの視点とした以上、調査は市職労の組合員のみではなく、市の職域の範囲にいる方すべてを対象とし、各職場の管理職、臨時職員をはじめ、消防職員、水道関係職員、教育職員にアンケート用紙を配布しました。また、今まで行政の側にいた経験による回答を期待し、市退職者会の会員にも依頼を行いました。調査を開始してからは回収率がとても危惧されましたが、現役職員が78%、退職者から64%、全体では75%から回答があり、当初の予想をはるかに上回る反応に胸をなでおろすと同時に、あらためて震災に対する

関心の高さを認識させられました。

また、集約した中での特徴的なものとしては、まずデータ面で「災害に備えた準備をしているか」との質問に対し、約60%が「している」と回答しているものの、「震災直後はしていたが現在はしていない」が20%強もあり、時間の経過とともに問題意識が薄れつつあることが明らかとなりました。また、これと「していない」を合わせると、現時点では40%の方が災害への備えをしていないという結果となりました。

さらに、多くの方からいただいた体験談、意見の中では、まず大多数の方が地震、津波という自然による恐怖と人間の無力さを思い知らされたとし、ライフラインが確保されないことが不安を増幅させるということも多くの方から示されました。そのような状況下で一番大切な地域での助け合いやつながりが各所で見られ、地域住民をはじめ、消防団、教職員等の協力により、救援活動がスムーズに行われたとの回答がありました。しかし、その一方で防災計画が大きく混乱し、機能しなかったとの批判も多くの方からあり、併せて実態に即した避難訓練、情報伝達訓練の必要性についてもたくさんの意見が寄せられました。

また、救援活動等に従事するにあたっては、「夫婦二人とも公務員だが、小さな子どもや老親を残したまま、災害対策要員とされても対応できない。職務をとるべきか、家庭をとるべきか」、「自宅の状況もわからない中で、平常心で任務につけるか」、「大津波警報が出ている中、被害の危険性のある地域で従事する義務」など、職員としての義務についての意見も多くあり、これらは今後、対策を講じる中での検討課題としていかなければなりません。

また、「震災を経験し、幸せの価値観が変わった」というような意見も複数ありました。「蛇口をひねれば水が出る、スイッチを入れれば電気が点く、こんな当たり前のことに幸せを感じるようになった」ということから、私たちはこんな当たり前の生活が一瞬にして消えてしまわぬよう、日頃の備

えの大切さをあらためて訴えていきたいと考えています。

この調査は集計して、とりまとめ終了後、各職場、各関係団体等に報告集として配布する予定です。また報告集は千葉県地方自治研センターのホームページに掲載します。

しかし、大切なのはこの結果を私たち自治体職員が今後どのように活用していくかです。今回、多くの方からいただいた貴重な意見、教訓等を地域の防災計画等に活かすことが求められており、そのためには私たちも努力をしていかなければならないと考えています。

■ アンケート実施内容

1. 実施期間 退職者会 2013年4月22日～5月10日
現役職員等 2013年5月29日～6月14日

2. 配布数

総数	市役所	水道	消防	退職者会
1,015	595	50	120	250

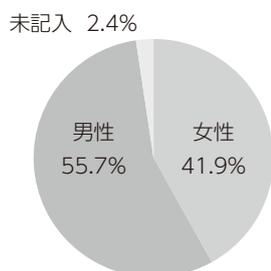
3. 回答数(回答率)

総数	市役所・水道・消防	退職者会
763	601	162
75.17%	78.56%	64.80%

4. 回答者の内訳

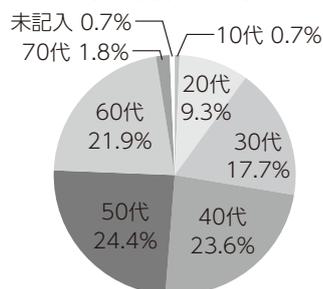
I 性別

性別構成比率



II 年齢

性別構成比率



5. アンケート項目

Q1 あなたは東日本大震災（以下「震災」とする）発生直後に何が思い浮かびましたか？（複数回答可）

Q2 あなたはどこで震災（14:46）に遭遇しましたか？

Q3 震災当日（勤務終了後）、どれぐらいで帰宅できましたか？

Q4 家族等の安否確認ができたのは、震災発生からどれくらいですか？

Q5 震災後、あなたは災害に備え、何か準備していますか？

Q6 あなたは震災発生後、何をしましたか？（複数回答）

Q6で1（職務として救援活動に従事）、2（地域や町内での救援活動に従事）と答えた方にお伺いします。

Q6-① 主にどこで従事しましたか？

Q6-② 救援活動に従事した際、良かったこと、悪かったことなど、思い出される出来事はどんなことですか？

Q7 東日本大震災を経験し、自分の周りで見たり聞いたりしたことで、将来に残すべきことはありますか？また、東日本大震災に対する感想や思いを自由に記入してください。

* アンケート結果はホームページに掲載 <http://chiba-jichiken.net/>